

共同研究成果報告書

作成日 平成 21 年 7 月 8 日

研究課題名	川瀬一馬氏旧蔵古典籍写真資料の調査と研究					
所属研究部局・職名	早稲田大学・国際日本学	ふりがな	おかざき ひさじ			
	研究所・客員教授	研究代表者氏名	岡崎 久司			
研究形態	1. 基幹研究 ②. 共同研究 3. プロジェクト研究 4. その他 ()					
研究の位置づけ	1. 中期目標・中期計画に記載 ②. その他 ()					
研究期間	平成 18 年度 ～ 平成 20 年度 3 年計画の第 3 年次					
研究経費	年 度	研究経費	経費内訳 (千円)			
			物品費	旅 費	謝金等	その他
	平成18年度	527	161	121	245	0
	平成19年度	421	275	12	134	0
	平成20年度	91	0	56	35	0
	平成 年度					
	平成 年度					
	平成 年度					
	総 計	1,039	436	189	414	0

研究組織				
氏名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役割分担	エフォート (%)
岡崎 久司	早稲田大学・国際日本学研究所・客員教授	日本古典 籍書誌学	研究の統括	20
井田 太郎	国文学研究資料館・文学形成研究系・助教	近世文学	江戸時代写本関係資料の調査と研究	5
小川 剛生	国文学研究資料館・文学資源研究系・准教授	中世和歌 文学	中世和歌及び歴史関係資料の調査と研究	5
落合 博志	国文学研究資料館・文学資源研究系・准教授	中世文学	中世文学関係資料の調査と研究	10
久保木 秀夫	国文学研究資料館・文学資源研究系・助教	中古和歌 文学	中古和歌関係資料の調査と研究	5
岡 雅彦	国文学研究資料館・名誉教授	近世文学	江戸時代刊本関係資料の調査と研究	10
小秋元 段	法政大学・文学部・准教授	中世軍記 文学	中世軍記及び古活字版関係資料の調査と研究	5
佐藤 道生	慶應義塾大学・文学部・教授	中古中世 漢文学	五山版及び漢文学関係資料の調査と研究	5
高田 信敬	鶴見大学・文学部・教授	中古文学	中古文学関係資料の調査と研究	5
堀川 貴司	鶴見大学・文学部・教授	中世近世 漢文学	五山版及び漢文学関係資料の調査と研究	5
間島 由美子	国会図書館・主題情報部古典籍課・主査	日本古典 籍書誌学	古活字版関係資料の調査と研究	5
村木 敬子	大東急記念文庫・学芸員	日本古典 籍書誌学	江戸時代名家筆跡関係資料の調査と研究	5
和田 恭幸	龍谷大学・文学部・准教授	近世文学	江戸初期刊本及び古版本関係資料の調査と研究	5
合計13名				

[概要 (まとめ)]

本共同研究は、書誌学者川瀬一馬氏が研究の資料として収集された総計1万枚以上に上る古典籍の写真を対象に、1枚1枚について書名・書誌分類・所蔵者・川瀬氏の著書における言及等を確認した上で、資料的性格と価値を検討することを目指して企画された。特に戦災等により原本が現存しないものについては、詳細な研究・解題を付して図版集として刊行することを目指している。

初年度の平成18年度は、研究の準備として、館内の研究分担者及びアルバイトによる写真の電子カード(写真1点ごとに番号を付け、画像を取り込んだもの)の作成を優先的に行った。

平成19年度も引き続き、写真の電子カード作成を行った。当該作業は7月頃終了の見込みであったところ、枚数が予想以上に多かったため終了が大幅にずれ込む結果となった。12月に、それまでに作成した電子カードをDVDに焼き付けて全員に配付した。年度末に、写真の電子カード作成をひとまず終了した。

平成20年度は、配布したDVDに基づく調査・研究の成果を随時メール等で寄せてもらい、資料館においてそれらを集約する作業を開始するとともに、資料館において電子カードのデータの不備を補正する作業を進めた。写真の枚数が膨大なため未だ不備な点は少なからず残っているが、資料の全体像の把握や、特に価値の高い写真の抽出などは概ね果たすことができた。

[研究会・資料調査]

[研究会]

以下の通り開催した。

(平成18年度)

平成19年1月30日(火) 於国文学研究資料館

本共同研究の全体的計画の説明、研究対象である川瀬氏旧蔵写真資料の概要説明、及び今後の作業手順の打ち合わせ等を行うとともに、カードの項目と記入法、カードの作成方法について意見を交換した。

平成19年3月13日(火) 於国文学研究資料館

事前に全員に配布して5～10枚程度試験的に記入してもらった、電子カードをプリントしたデータシートを基に、項目や記入方法などに関する問題点等を検討した。

(平成19年度)

平成20年1月29日(火) 於国文学研究資料館

落合博志「川瀬一馬氏旧蔵写真における能楽資料について」：川瀬氏旧蔵写真資料に含まれる能楽関係資料の概要を説明し、天保年間の宝生座の役者の出勤日記(原本の所在不明)について、性格と価値を紹介した。

そのほか各自の調査報告及び意見交換を行い、枚数の予想超過を踏まえて今後の作業手順や方法について再検討した。

(平成20年度)

平成21年3月4日(水) 於大東急記念文庫(「五山版を中心とする中世刊本の研究」の科研と合同)

落合博志「江戸初期の出版事情一面——古活字「本能寺前版」考——」：古活字版のうち本能寺前刊行の刊記を持つ一群のものについて、川瀬氏以来の通説を再検討し、本能寺版と本能寺前版の書目及び刊者の関係について新たな見解を提示した。また、本能寺前版の可能性のある無刊記の古活字版について考察した。

堀川貴司「大英図書館所蔵五山版について」：大英図書館所蔵五山版のうち『景德伝灯録』3点を取り上げ、既刊の目録の記述の誤りを指摘するとともに、大東急記念文庫所蔵本とも比較しつつ伝本上の位置付けを行った。

[資料調査]

本共同研究費によるものではないが、「五山版を中心とする中世刊本の研究」の科研費により平成20年2月17～21日に実施した布施美術館(滋賀県伊香郡高月町)の資料調査において、川瀬氏旧蔵古典籍写真と関わる資料の確認調査を併せて行った。また、平成20年4月から11月にかけて科研の調査として実施した大東急記念文庫所蔵五山版の調査において、川瀬氏旧蔵の五山版写真と関わる版本を多数調査した。

[展示・シンポジウム]

実施していない。

全体の研究成果

資料の数が予想外に膨大であり、整理にかなりの時間を費やしたため、対象の資料全体について研究期間内に最終的な研究成果をまとめるには至らなかったが、どのような写真があり、特に価値の高いものとしては何があるかを確認する基礎作業はほぼ果たし得たと考える。川瀬一馬氏蒐集の古典籍写真を対象とするこの研究は本共同研究の終了をもって終わるわけではなく、今後これを基に調査・研究の作業を続け、できるだけ早い時期に研究成果を公刊したい。

なお、本共同研究に関連する研究論文や出版物については別記を参照。

[成果出版物・論文等]

本共同研究を踏まえた論文として、次のものがある。

小秋元段「要法寺版をめぐる覚書」『藝文研究』第95号、平成21年3月

落合博志「江戸初期の出版事情一面——本能寺前版古活字版考・序説——」『文献学の世界』平成21年9月刊（予定）

また、川瀬氏旧蔵古典籍写真によって得られた江戸初期刊本の刊記データは、岡雅彦編『江戸初期出版年表』（近刊予定）の中に吸収されている。